

表紙の写真

ヒガンバナ

磐周医師会 吉田 達也

表紙の写真を募集しています。

静岡県内の風景、名所旧蹟、祭り等の風物など、静岡にゆかりのある写真を募集しています。コメントを添えて広報部までお寄せください。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の第2波も収束の気配があります。疫学的検討からの推論ですが、日本人は既に集団免疫を獲得しているという説があります。弱毒型のコロナSタイプが中国人により日本に持ち込まれ12月23日に流行し、1月13日には武漢以外の中国人により持ち込まれた弱毒型のコロナKタイプが日本で大流行しました。Kタイプの獲得免疫は液性免疫のIgGではなく細胞性免疫であるT細胞免疫が活性化され、集団免疫を獲得したと考えられています。欧米では1月以降中国人全員を入国禁止としたため弱毒型Kタイプによる獲得免疫が得られておらず、武漢型Gタイプによる死亡率は高いですが、集団免疫を獲得していた中国・韓国・日本では低い死亡率を呈していると言います。

しかし日本人が既に集団免疫を獲得しているとしても、自分に免疫が獲得できている保証はなく、もし獲得していてもIgMだけでなくIgGが高値を示す再感染例にサイトカインストームによる重症例が認められることより、コロナウイルスの暴露は絶対避けるべきで、診療中最強の自己防護具の装着ははずすことはありません。ただし現在はあくまで事後に濃厚接触者と判定されないための完全防備です。

【とびらのことば】は岡慎一郎理事が「かかりつけ医の役割～2025年以降の新たなページに向けて～「後期高齢者の増加」・「支える世代の減少」と題して、在宅医療における病状悪化時の対応の問題、医師会主導による高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の必要性、地域共生社会におけるかかりつけ医の役割などについて言及されました。

【シズケアサポートセンターだより】は静岡県介護支援専門員協会の村田雄二会長から、県医師会館内に開設されたシズケアサポートセンターへのお祝いのお言葉を戴き、医療介護連携に関わる全ての職種からの支援・協力を受けて活動できれば、静岡県全体でハイレベルの医療介護連携システムが構築できるはずとの期待が寄せられました。

【日医総研だより】では移行済みの医療法人へのインタビュー調査結果から、持ち分の定めのない医療法人への移行に関する課題について考察し、支援のためのポイントが3点にまとめられています。

【ワンポイントアドバイス】は静岡県医師会医療安全対策委員会の顧問弁護士：杉本喜三郎先生に肺癌の一般検診における医師の過失を否定した1事例を紹介していただきました。一般的な健康診断を担当する一般的な臨床医を前提とした読影能力では、単純X線写真だけでは肺癌の見落としは起こりうるという事例でした。またCT像がなければ肺癌の予後と言及できないというものでした。

最後になりましたが、新任の県医師会理事として広報部にも配属され、編集後記を分担執筆させていただくことになりました。今後ともよろしくお願いいたします。

(令和2年9月14日 森 泰雄 記)

S

発行所 一般社団法人静岡県医師会
発行人 紀平幸一
毎月1日発行

〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠3丁目6番3号
電話 (054) 246-6151
FAX (054) 245-1396
ウェブサイトURL <http://www.shizuoka.med.or.jp/>
Eメールアドレス ishikai@jfm.shizuoka.med.or.jp

定価 880円 (送料共)
(会員の購読料は会費に含まれます)
印刷所 大日三協株式会社

SHIZUKA